

第3回第2次岡崎市文化振興推進計画策定委員会会議録

1 日時

平成 28年6月 29 日(水) 午後3時 開会 午後5時 閉会

2 場所

岡崎市役所 西庁舎4階 401 号室

3 委員

出席者 清水裕之、榊原悟、柏木典子、団野美由紀、柴田剛太郎
渡辺傳次郎、梶田美香、仲村悠希、山田高広、青木日奈子

欠席者 なし

4 事務局

文化芸術部 部長 石川眞澄、文化総務課 課長 野田元陽
文化総務課 主幹 前島豊、主査 鈴木みどり

5 傍聴人

なし

6 議題

- (1)「岡崎市文化振興推進計画」の分析について
- (2)「岡崎市市民文化意識調査」の分析について
- (3)「第2次岡崎市文化振興推進計画(仮称)」の骨子について

7 議題要旨

委員 「若い人や次世代に残していくべき文化を育んでいこう」ということが入っているのは良い。

現在、岡崎市が、施設等の総合管理計画をパブリックコメント中だが、人口減少と施設維持管理費を考えると、今後 15%ぐらいの費用カットが必要とされている。どの施設を、どの機能で、どのように残していくかを考えなくては。文化施設が費用削減対象となる場合、次世代に文化をどう残すかは重要である。

「取り組むべき主要課題」がなぜクリアできなかったかと考えないといけない。

文化の担い手づくりを自分たちも推進したいが、できていない。なぜできなかったかを深掘りしないと、解決策が考えられないのではないか。

事務局 行政として、文化事業は進めていくが、今後の人口減少も考えていかななくてはならない。

目標に向けて取り組んでいくのは、行政だけでなく、市民の役割でもある。前回の計画は、目標に対し、評価できないことが課題であった。事務事業評価を行ってはいるが、公務員として評価しているだけである。

委員 人口減少と経済縮小に入らる中で、文化は経済の創出にとっても大切である。(参考著書「文化経済学」)「公共施設の費用をカットしなければならないので、文化施設費をカットしよう」という考え方では、岡崎市は文化的に沈んでしまう。

文化の底力を創造力として高めることによって岡崎に人口が集積し、産業が集積し、より魅力ある生活を実現するというのが、基本的な考え方である。スペインの都市のように、文化事業を整備して、都市のブランディングを行い、それまで以上に収益を得たという事例もある。

計画の方針として、ハードウェアは古い物を活用する傾向にあるので、将来に向けてソフトウェアの充実を図ることが大切だと思う。

行政だけでなく、企業と連携することも重要。またアクセス面でのバリアフリー化も進めたい。

委員 自分たちの活動においても、歴史文化の継承や担い手の育成がやり切れていないと思う。小・中・高校生へのアプローチができていない。

岡崎へ帰ってきたUターン者に聞くと、地域の文化をよく知っている。幼少期の体験があるから。本来であれば、アクションプランも小学生達につくってもらったらよい。子どもたちが自分たちで考えるような機会があればよいと感じる。

委員 子どもについては、自発性が出るまでにプロセスがあり、最初はあまり関心がなく、聞いて終わってしまうこともある。その後、自分なりに考えて初めて自発性が生まれる。きっかけをどう多様に作り、その後のサポートを丁寧にするかということが大切である。

委員 これまで行政に対して「どうしてできないのか」と思うことが多々あった。例えばフラッシュモブを東岡崎駅前で行いたいと思っていたが、規制が多かった。エリアを決めて、「このエリアは、この期間中であれば、どこでも歌ったり、踊ったりしてよい」という仕組みがあるとよい。

イオンのピアノがあるスペースももっと活用すればよいと思う。子どもたちのチアダンスや合唱など発表したい人達を募って、市民会館などのお金がかかる場所ではなく、身近な場でつながっていくような瞬間ができるとよいが、今は少ない。

県内の私立高校が集まって、名古屋市で、ダンスや歌の発表会をすると、

何万人と集まったりする。市民や県民の人は、驚いて見てくれる。

ニューグランドホテルからの岡崎城の眺めや、殿橋のライトアップなど、知らない市民のかたが沢山いるのではないかと。宣伝不足である。夏休みの一定期間は、夜も子どもたち開放できるなど仕組みがあるとよい。

市制記念のイベントにおいても小学生とコラボするが、校長会から規制があるなどという話も聞き、とにかく考え方が固い。文化芸術は型にはまっていたら発展はない。ハッとすることから文化芸術になる。こだわって思い切った取り組みがあるとよい。

委員 固いということもあると思うが、だからこそ伝統文化が残っているという側面もある。フラッシュモブも施設内だけでなく、まちなかでやれるようになるとよい。

若い人の企画が、アイデア段階で実現しなくなる例はよくある。しかし、10案に1案でもよいので、できればよい。せきれいホールで自由にできるようにするなど、うまく実現する仕組みを考えていきたい。

事務局 フラッシュモブについては、規制緩和の話になる。国だけではなく、地方(担当課)においても規制が沢山あるので、一つずつクリアしていかなくてはならない。

人道橋についても、道路認定するか否かの問題がある。橋を活用した取り組みができるように、電気と水道だけは通すよう担当課に話しているが、道法がかかると活動ができなくなり、宝の持ち腐れになってしまう。

委員 規制をクリアし、実現する方法はあるので、行政内で組織横断的に信頼関係を築いておけるとよい。

委員 「第2章 取り組むべき主要課題」で「創造環境の充実」とあるが、そもそも充実してないのか、また「芸術文化活動の活性化と参加促進」とあるが、そもそも活性化していないのか、と思う。世界的にみたら、日本のようにアマチュアの文化に行政がお金を使うことは珍しい。プロの活動に公的資金を使う方が圧倒的に多い。その意味で、日本は恵まれている。個人的には、施設も充実しているし、活性化もしていると思う。アマチュア的な文化と、プロの文化の境界があいまいなことが、日本の文化の特徴でもある。

日本は、明治維新と戦争という歴史の中で、自国文化を否定する感覚を持っている。日本の伝統的なものは古く、外から入ってくるものがよい、という感覚がある。伝統文化の継承がうまくできない要因でもある。

岡崎は、伝統文化も盛んで、文化協会も活発に活動しており、貴重な文化資源が沢山ある。アマチュア文化とプロ文化をどうつなげていくかを考えることが重要である。

岡崎のまちをアピールする上で、どこに特化するかということ議論して

いくことが必要ではないかと思う。

委員 市民が企画・提案する事業は非常に大事だと思う。フラッシュモブは公共事業としてやろうと思ったからできなかったのではないか。

民間で文化事業をどう育むかということが最も大切であり、それに対して行政が公園や道路をどう開放するか、都市横断で連携していくかということを考えることが、文化事業を育む上での行政の大事な「入口」だと思う。それを主要課題の0番で書くべきだ。

今回、それに対してどんな「出口」をつくとよいか、ということについては、お客さんからお金をもらって運営していくようなものもあれば、自分が暮らしたいまちになるように応援したいというものもあると思う。ジャズストリートは、その両者が重なったモデル的な事業だと思う。

そのようなことをいくつできるかということが評価指標であり、公共事業でやってきたことを、どれだけ、協働型にできるかが大切である。

委員 「第5章 重点プラン」に今の意見を加えたらどうか。トリノ市は企業破綻から、財政状況が悪化し、120万人から80万人へ人口が減少したが、市民と一緒に、産業都市から文化芸術都市への転換を図って、10年先を見据えた戦略的計画や、みんなで実現する仕組みを、何千人もの人で、毎晚会議を行って作り上げた。そのようなことができるとよい。

委員 若手演奏家の中に、ジュニアオーケストラ出身者が増え、とても嬉しい。

アウトリーチ活動として、学校においてコンサート形式でプログラムを行う際、そこにワークショップを入れると、受け手側の子どもたちにより定着するように感じる。それが後の、文化芸術への興味関心につながる。

ある学校の話になるが、博物館へ行った際、館の職員ではなく、担任の先生が自分で博物館内部を説明し、「生きた授業」をしていた。すごくいいと感じる。校長先生の考え方によって学校ごとに違うので、できる学校とできない学校とはあると思う。

フラッシュモブについては、イベント的にやるのもいいが、自然発生的に生まれて、周りの人が一緒に参加できるのも魅力だと思う。自然にやれるとよい。

短期的な取組みと、長期的な取組みを組み合わせ、市民の文化活動が生まれると思う。

委員 学習指導要領の改訂で、アウトリーチが入ることを期待している。

委員 まちなかもよいが、ぜひ中央総合公園でもやってもらいたい。

文化財の保護活用、歴史・文化が重要だと思うが、そこに対する取組みが重点プランに出てきてない。

京都や九州などとは背景が違うから、そのまま岡崎にあてはめるのは難しいかもしれないが、学校教育と連携して幼少期に思い出がつけられるとよい。

京都国立博物館には、文化財ソムリエがいたり、大学生がボランティアで文化財の複製品をつくり、学校へ持って行って歴史的な背景など説明していたりする。岡崎市の美術博物館もアクションをおこしたい。

意識調査のアンケート結果から、岡崎の歴史文化に対する興味は、年代によってばらつきがあると感じる。単純に学校教育だけではなく、地域の社会教育の中でも育むことが大切だと思う。

委員 アンケート結果では、歴史文化について、「重要度も高いが満足度も高い」と出た。それをどう解釈するか、である。

第4章の施策について、美術館・博物館の部分を盛り込んでいきたい。また第6章の美術博物館のミッションやアクションにも、意見を盛り込んでいきたい。

委員 文化協会から学校へ講師が派遣され、毎年数校で教えているが、和楽器と民謡などへの派遣依頼が少ない。学校側も必要性を認めているが、時間が取れない状況ではないか。

しかしながら、五万石のおどりやうたを教え、地域の夏祭りで小学生が披露してくれたという事例もある。公園緑地課や活性化本部など尽力されたから実現した。

限られたルートでしか話が進まないように感じる。早い段階から要望を出して、例えば冬のうちから夏のイベントを企画できるようにできればと思う。

委員 毎年、小学校2校で、ジャズの出前演奏をしている。校長先生の考え方ひとつで、子どもたちの聴き方も違って驚いた。1校は、静かに黙って聴いており、もう1校は歌ったり踊ったりして聴いていた。

ジャズについての、意識調査の満足度が最下位だが、今後どう進めていくかについては検討が必要である。

委員 計画を推進する際、各主体が協働で実施するのだが、それぞれが、自分事として実施する人を増やしていくことが大事である。子どもから年配のかたまで携われる仕組みがあるとよい。

吹き出し部分に「施策事業ごとに担当課も併記」と記載があるが、それを明確にしないと、「計画したけど実施できなかった」となってしまう。

第6章関連で、文化施設以外にも、民間団体がどれくらいいて、具体的にどれくらい実現に向けて動いているかということが見えてくると、絵に描いた餅にならなくなる。また、文化施設でも頑張っている人がいるので、ボランティアも含めてその人たちが、実際にどのように関わっていけるかというのも見えてくるとよい。

子どもに関する事業については、学校との連携も必要だが、教育委員会などを担当としてかけたらよい。

委員 どの主体が、責任をもって実施するということをかければよいが、民間などはかけない。行政内の部署は明確にはできる。

委員 幸か不幸か、岡崎は暮らしやすいし評価も高い。「活性化しましょう」と言っても、なかなか自分事にならない。そこをうまくつなげるために検討したい。

子どもたちが自分自身の言葉で、自分事にしてもらおう視点が大切。行政的な計画ではなく、今までにないような文化的な計画を作ってほしい。言葉の選び方、表現の仕方ひとつも注意すれば、自分事に近づく。

体験活動については、異業種とも連携ができるとよい。中心市街地で遊休不動産を活用した取組みをサポートしているが、英語教室とアートなど、連携させて、教育へとつなげている。例えば「三味線と日本料理」や「伝統的な日本建築と現代的なダンス」など、いろいろな組合せが考えられると思う。それができるのが岡崎ではないか。

委員 今の部分は核心に近いと思うが、書き込みが足りないので、伝わっていないと感じる。伝わるように、計画を書き込んでいく必要がある。

委員 大きな流れ(骨子)はよいと思うが、細かい部分で、昨年度の会議での議論も踏まえてほしいし、また今年度も議論を重ねていきたい。

事務局 本日の御意見をもとに骨子を修正する。本日は以上。

午後5時 閉会